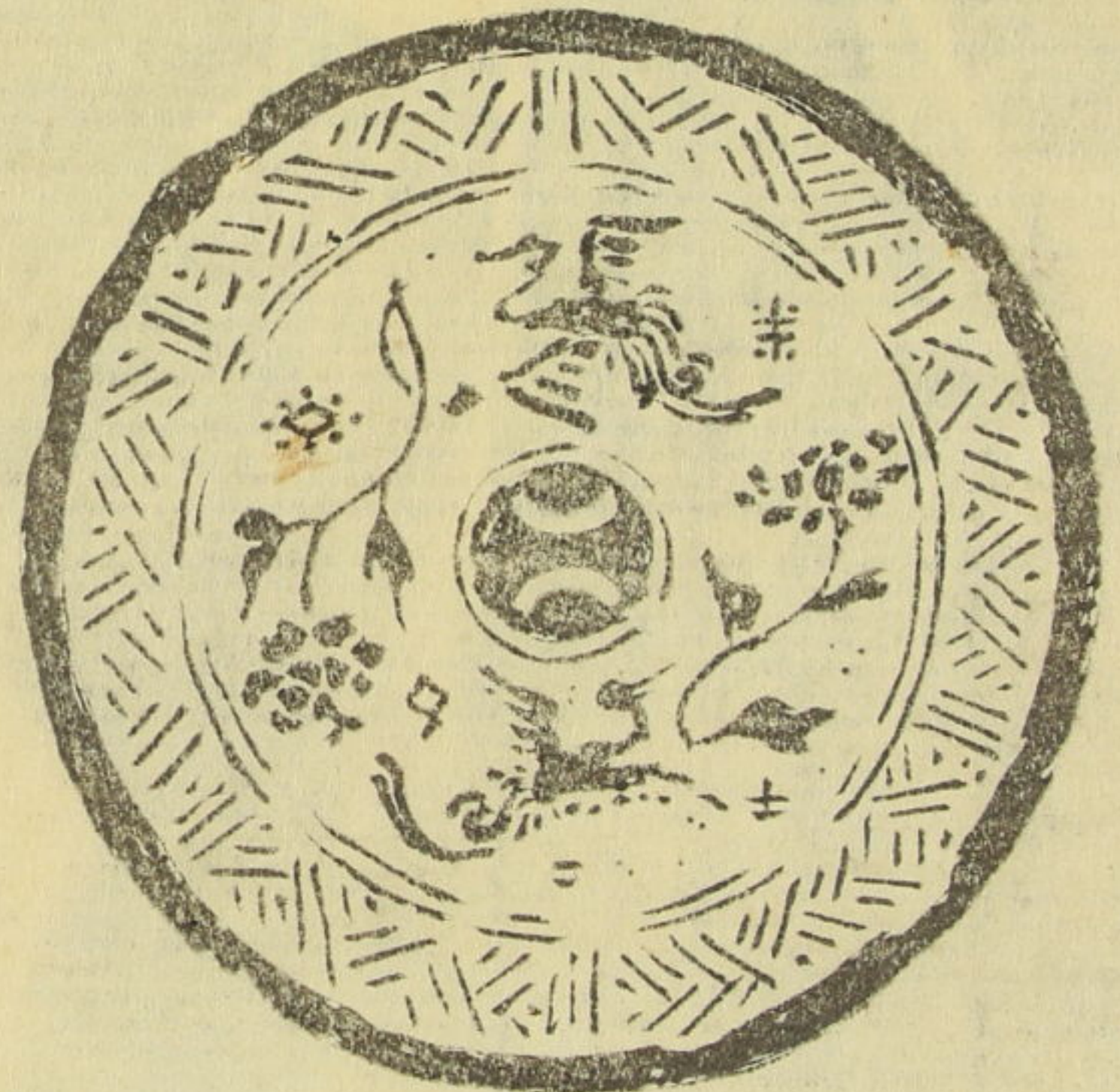
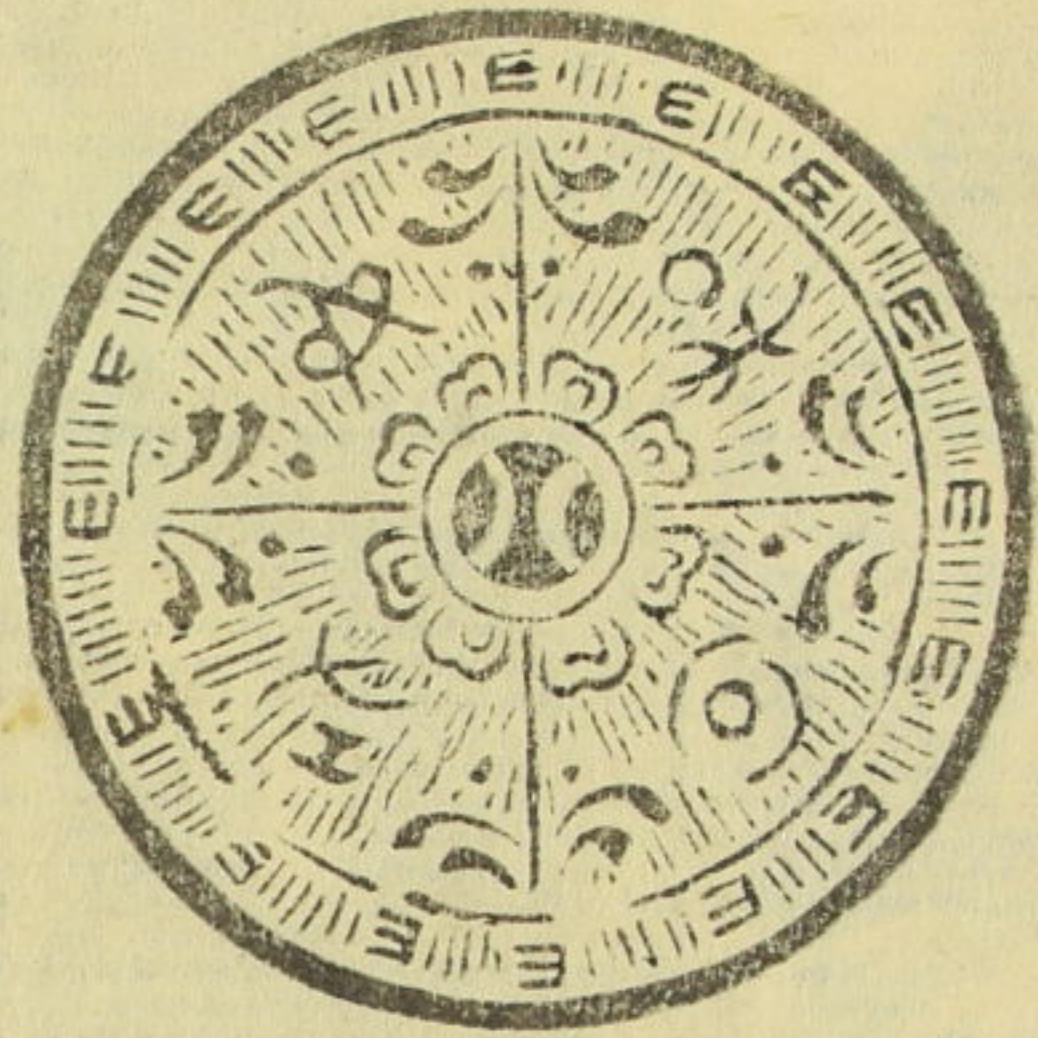


門へ13
 號 3740
 卷 31

時代鏡十六編上



春水作國貞画

一
 六



演義の小技なりとも其性情と辨へ方俗と
 考へ萬類を形容するは乃ち儒と道と異ふせも
 余は僅の國字冊子も讀み隨ひ目小熟し
 教の切賣早學問と己が便次の手前味噌も
 甘の辛の巧拙のその差別はなほよくも
 思ひて鼻毛と俱小長々一茲ふ二八の編成
 綴りど蕎麥より延び作者の腹稿末いと
 遙けりわらふは猶寛やふ賢覽とていへ

己未
 陽春

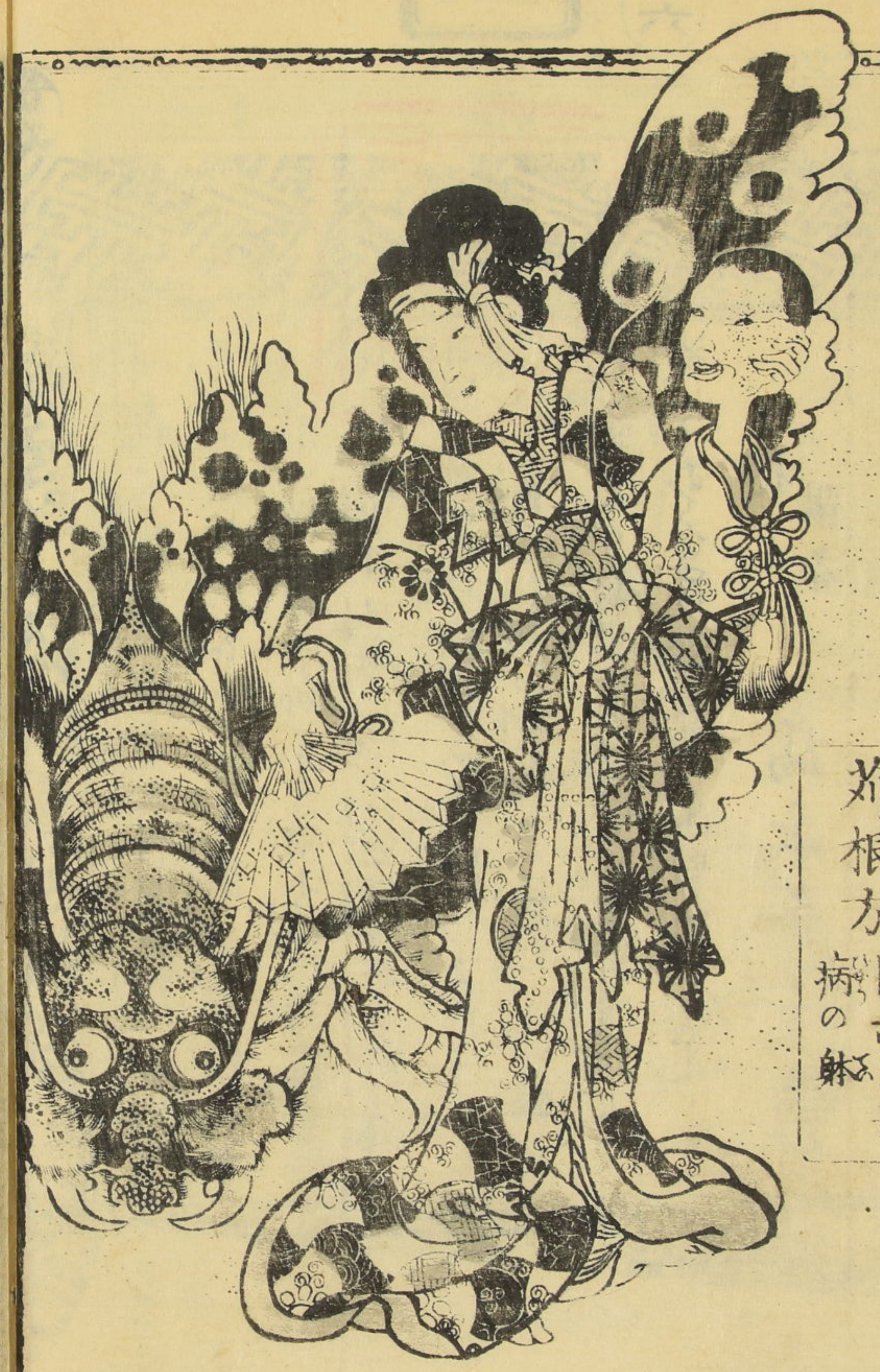
爲永春水記る

寺代十一

山川直記自信



新根方 圖所ハ奇 病の躰

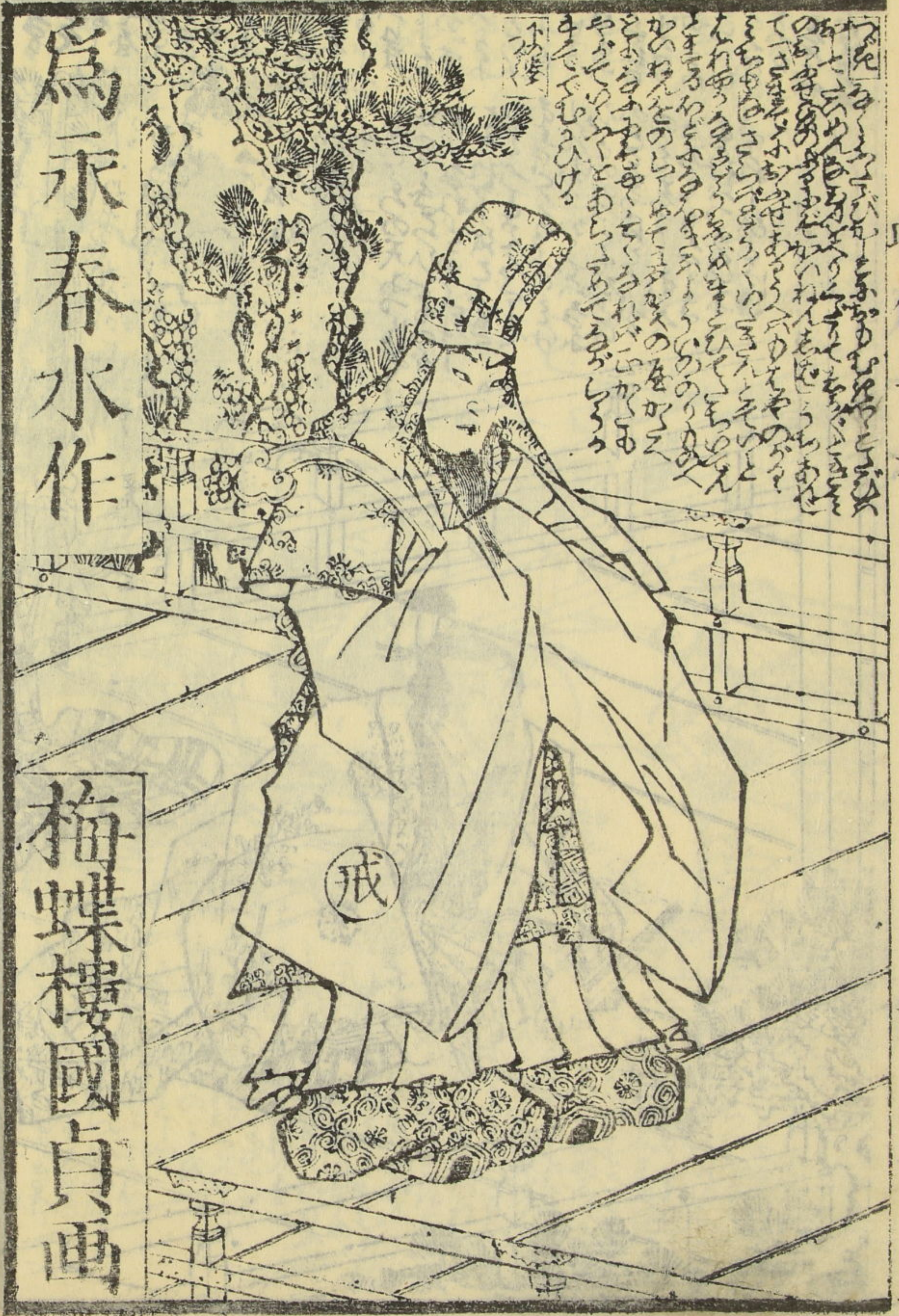


寺代一六

月入一六



此の巻は、
 梅蝶樓國貞の
 貞画の
 名作也。



鳥永春水作

梅蝶樓國貞画

風流画半切

越前奉書紙
伊豫奉書紙

○縮山 一尺半切
○くわむ 一尺半切

狂齋百圖全

洞部画

上 所帰のみ巻

名を掲げたりは多し
計り入るるもの

忠臣義士銘傳

一 鑑齋芳虎画

此の巻は、
 狂齋の
 名作也。

此の巻は、
 狂齋の
 名作也。

右の大御所二切の寸法は、
 形画由之付死ふかのく初め
 一巻後半終りて、
 一巻の
 一巻の
 一巻の

當年
新板

壽お六の歌志

目録包

中引り入のり
 一丁のり
 一丁のり

此の巻は、
 狂齋の
 名作也。

此の巻は、
 狂齋の
 名作也。

若林堂藏

